

地域体験スタートアップ

後期

担当教員 | 滝澤 匡/佐々木 究

曜日校時 | 月曜日 5・6

授業の目的

- 人口問題を中心とした、日本全体及び地方（山形）の現状と将来的課題を講義により学習します。
- 山形の魅力的な歴史・文化・自然・人物・企業などを学習し、地方創生に繋がる地域の可能性を理解します。
- 大学周辺の地域活動に参加する地域体験により、地域の現状と課題を知ることができます。
- 講義でのグループワーク、地域活動での協働により、年齢や背景の異なる人々の組織で活動する楽しみに出会え、社会人を向上させることができます。

授業内容

【全国および山形に関連する12回の講義】と【地域体験】（1日程度）を行う。

講義：地域の現状と課題、山形の魅力を複数の教員のリレー形式により実施する。

地域体験：グループにわかれ、社会福祉協議会や自治会と連携した小白川キャンパス周辺の地域活動に参加する。

1. ガイダンス
2. 日本の現状①＋グループワーク
3. 日本の現状②＋グループワーク
4. 地方（山形）の現状①＋グループワーク
5. 地方（山形）の現状②＋グループワーク
6. 地域学習にむけた心得＋グループワーク
7. 山形の魅力ある歴史
（学士課程基盤教育機構・阿部宇洋先生）
8. 山形の魅力ある彫刻
（地域教育文化学部・土井敬真先生）
9. 山形の魅力ある文化（阿部先生）
10. 山形の魅力ある人物
（地域教育文化学部・三上英司先生）
11. 山形の魅力ある企業
（学士課程基盤教育機構・松坂暢浩先生）
12. 山形の魅力ある農業
＋【地域体験】（10月～1月の週末や休月中に、大学周辺の地域活動へ1日程度参加する）
※ 地域系シンポジウムへの参加を授業に組み込むこともあります。



授業で学べる山形関連情報

対象市町村：山形市

- 講義による学習では
- ①人口問題を中心とした山形県の課題
 - ②山形の魅力ある地域資源
- 地域体験での学習では
- ①大学周辺の地域活動の運営の楽しみ
 - ②地域が抱える課題と魅力



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● ● グループ ●

学生へのメッセージ

自分たちが暮らす地域がどのような人々により支えられているのか学び、将来自分たちが担っていく気概を持ってくれるとうれしいです。

【過去の受講者の感想】

- 色々な先生の視点から山形の魅力を知ることができ、とても良い。
- グループワークでは自分の考えもつかないような意見や考え方をたくさん聞くことができ、とても刺激だった。

【授業評価】 学生による授業評価は4.8/5（H30前期：Q総合的に判断すると良い授業でしたか？）

雪国で考える

後期

担当教員 | 三上 英司/楠本 健二/小松 恒誠

曜日校時 | 月曜日 5・6

授業の目的

雪国は人口減少と高齢化が進んでいるだけでなく、雪国特有の問題を抱えています。一方では、雪の人口減少先進地の山形県が現在抱える課題に向けて、若者の視点から人の生き方を考えながら、豪雪地帯である【大石田町を事例にとり】、地域の活性化、地域創生の方法について探ります。授業の最後に除雪ボランティアを行い、雪国の高齢者に対する除雪ボランティアの意義を考えます。

授業内容

雪国特有の問題、雪の科学、雪処理に関する講義の後、【山形県大石田町を訪れ】、【雪国の生活を体験】するとともに、【日常の課題を聞きとり調査】して、課題解決に向けたグループ討論を行います。【降雪期に除雪ボランティアとして、豪雪地帯の高齢者宅の除雪】を手伝います。

- 第1回 「山形に住む」こと、雪国の問題を考える、人口減少と高齢化社会
- 第2回 雪の科学
- 第3回 利雪・親雪
- 第4回 克雪・雪処理の課題
- 第5回 【大石田町の課題（町の職員による講義）】
- 第6～7回 【大石田町探訪】（11月14日（土）予定、交通費負担なし）
- 第8～10回 「大石田町の課題解決に向けてグループでアイデアを出しあう」
- 第11回 プレゼンテーション用提案資料の作成
- 第12回 プレゼンテーションの練習
- 第13回 プレゼンテーション用資料の修正
- 第14回 【大石田町でプレゼンテーション】
【除雪ボランティア】（1月23日（土）交通費負担なし）
- 第15回 レポート作成

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：大石田町



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● ● グループ ●

学生へのメッセージ

考える力にはつきません。考えるときは言葉を使いますので、色々な本を読んで、言葉を獲得していく必要があります。仲間とのグループディスカッションでも、相手が理解できる言葉を積み上げていく機会を積極的に利用して下さい。

山形の火山、世界の火山

後期

担当教員 | 伴 雅雄

曜日校時 | 月曜日 5・6

授業の目的

草津白根山や御嶽山の噴火は記憶に新しいですが、日本はこのような活火山を多数抱える世界有数の火山国です。山形や東北地方にも蔵王山、鳥海山を代表として活火山がたくさんあります。火山はひとたび噴火を起こせば災害をもたらします。この講義では、東北地方で噴火記録最多の蔵王山について現地での観察及び噴出物の室内観察を行って、噴火履歴解明を体験します。また世界の火山の分布、型、噴火様式、噴出物などの知識を修得し、山形の身近な火山の噴火の歴史を知り、噴火災害について考えます。

授業内容

前半には蔵王山での現地観察と噴出物の室内観察を行います。10/10(土)と10/17(土)に予定しています。上記両日及び予備日として10/11(日)も空けておいてください。その他の回ではテーマに関してパワーポイントや視聴覚教材を用いて説明を行います。パワーポイントのシートは印刷して配付します。また、知識を深めるために演習を行います。学生主体型の演習を取り入れます。日程は以下の通りです。

- 第1回 講義の進め方とガイダンス
- 第2～5回 蔵王山の現地観察：演習
- 第6回 世界の火山の分布、型、噴火のタイプと噴出物の種類：演習
- 第7～10回 蔵王山の噴出物の室内観察：演習
- 第11回 火山爆発指数と世界の巨大噴火：演習
- 第12回 山形の火山
- 第13回 ハザードマップ、噴火シナリオ、山形や東北の火山の噴火の頻度：演習
- 第14回 火山との共生：演習
- 第15回 まとめと到達度評価



授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形市、上市市など

蔵王山での現地観察と噴出物の室内観察を行い噴火履歴の解明の仕方を体験できます。世界の火山の分布、型、噴火様式、噴出物など基礎知識を習得できます。山形の火山の噴火の歴史、現状、災害予測について理解できます。



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● ● グループ ●

学生へのメッセージ

日本是世界有数の火山国ですが、これは地球の営みから考えると必然的であることがわかります。このような火山国に生まれた私たちは、火山と共生していく宿命にあります。火山は多くの恩恵をもたらしますが、一方で災害も引き起こします。うまく付き合っていくには火山を知る必要があります。この授業では、受講した人達が火山とうまく付き合うことができるようにしたいと思っています。なるべく欠席しないようにして下さい。

山形の歴史と文化

後期

担当教員 | 荒木 志伸

曜日校時 | 火曜日 3・4

授業の目的

山形について歴史・文化的視点から学び、地域への愛着を深める授業です。みなさんは、山形大学に在籍している期間はもちろん、卒業後も山形という土地とそこで触れた文化に少なからず影響されるところが多いはずです。「地域」を知ることは、自らの生まれ育った場所を認識することであり、その結果として「自己」を発見することでもあります。山形で生まれ育った人も、初めて来られた人も、本授業で山形についての理解を深めてください。



授業内容

毎回、『山形の歴史や文化』に関する内容を取り上げます。多くの映像資料を用いながら、パワーポイントでわかりやすく解説していきます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 『山形県の概要』
- 第3回 『山形の歴史・文化財① 山形の絵画・古文書』
- 第4回 『山形の歴史・文化財② 山形の考古資料』
- 第5回 『山形の歴史・文化財③ 山形の仏像』
- 第6回 『山形の歴史・文化財④ 山形の建築』
- 第7回 『山形の歴史・文化財⑤ 山形の日本遺産』
- 第8回 『山形の文化① 果物と在来野菜』
- 第9回 『山形の文化② 麺文化ーラーメン・蕎麦ー』
- 第10回 『山形の文化③ GI山形ー優れた日本酒ー』
- 第11回 『山形の文化④ 伝統工芸』
- 第12回 『山形の文化⑤』【附属博物館の見学】
- 第13回 『山形の歴史と人物① 最上義光』
- 第14回 『山形の歴史と人物② 上杉鷹山』
- 第15回 『山形の歴史と人物③ 授業のまとめ、山形および山形大学に関わる人物』

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形市、鶴岡市、酒田市、新庄市、米沢市など

上記の市町村を中心として、山形の豊かな歴史と文化に関する基礎知識を得ることができます。



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● ● グループ

学生へのメッセージ

【過去の受講者の感想】

- 山形出身なのに、知らないことばかりだった。山形には目立つ歴史はないと思っていたので驚いた(人文1年)。
- これからの4年間を過ごす上で、入門の授業として最適な内容だと思う(医学1年)。
- 地元に戻ったら、自慢したい山形ネタを得られた(工学1年)。
- 山形県に特別な歴史は何もないと思っていたが、文化財や魅力にあふれていて、誇りに思うようになった(地教1年)。

【授業評価】担当教員は令和元年のベストティーチャー賞を受賞しています。また、学生による授業評価(総合平均)も4.7/5、4.81/5など、受講生の多くが満足しています。

歴史民俗資料を読み解く

後期

担当教員 | 阿部 宇洋

曜日校時 | 火曜日 5・6

授業の目的

身近な歴史や民俗事象から情報を読み取り、観察することにより、山形への理解を深めます。また、山形を知ることで、比較軸を形成し、さまざまな視点で社会を見ることができるようになることを目的とします。

授業内容

基礎的な内容を講義し、その後課題を提示します。課題に対して討論（ディスカッション）→調査（グループワーク）→報告、発表をしてもらいます。
また、研究、文化財行政の最前線で活躍されている方から講義をしていただく予定です。

1. オリエンテーション
 2. 歴史民俗資料学基礎論
 3. 『やまがた（郷土）を学ぶ（地域調査方法入門）』
 4. 『地域と歴史民俗資料1』
 5. 『地域と歴史民俗資料2』
 6. 『やまがたの口承資料を考える』
 7. 『怪異、モノノケ、不思議なことを読み解く』
 8. 『戦争と資料（軍事郵便と特別高等警察）1』
 9. 『戦争と資料 2』
 10. 調査1（課題設定、資料を調査する）
 11. 調査2（観察・調査・発表準備）
 12. 調査内容をまとめ、発表資料を作る
 13. まとめ・発表
 14. 【博物館見学1】
 15. 【博物館見学2】
- 2回分は博物館への参観、レポートになります。

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形県全域



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● グループ

学生へのメッセージ

教員のメッセージ

「あるく・みる・きく・かんがえる」ことで今までの学校生活では体験した事のない知的探究心を育むことになります。自身で壁を作らず、挑戦してみてください。

歴史民俗資料学、調査方法が学べる講義です。歴史が苦手な人もぜひ受講してみてください。人文系だけでなく、理学部、工学部の履修が多い講義です。（授業評価 4.7/5.0）

過去の受講者の感想

- 先生の説明が分かりやすく、面白かった。普段触ることのできない貴重な資料に触れることができ、なかなかない経験をするのができた。とても楽しかった。
- 普段触れられない歴史民俗資料やその読み方などを知ることができた。戦時中の手紙の話が特に興味深かった。

山形の歴史と文化

後期

担当教員 | 荒木 志伸

曜日校時 | 火曜日 7・8

授業の目的

山形について歴史・文化的視点から学び、地域への愛着を深める授業です。みなさんは、山形大学に在籍している期間はもちろん、卒業後も山形という土地とそこで触れた文化に少なからず影響されるところが多いはずです。「地域」を知ることは、自らの生まれ育った場所を認識することであり、その結果として「自己」を発見することでもあります。山形で生まれ育った人も、初めて来られた人も、本授業で山形についての理解を深めてください。

授業内容

毎回、『山形の歴史や文化』に関する内容を取り上げます。多くの映像資料を用いながら、パワーポイントでわかりやすく解説していきます。

- | | |
|-------------------------------|---|
| 第1回 ガイダンス | 第9回 『山形の文化② 麵文化ーラーメン・蕎麦ー』 |
| 第2回 『山形県の概要』 | 第10回 『山形の文化③ GI山形ー優れた日本酒ー』 |
| 第3回 『山形の歴史・文化財①
山形の絵画・古文書』 | 第11回 『山形の文化④ 伝統工芸』 |
| 第4回 『山形の歴史・文化財② 山形の考古資料』 | 第12回 『山形の文化⑤』【附属博物館の見学】 |
| 第5回 『山形の歴史・文化財③ 山形の仏像』 | 第13回 『山形の歴史と人物① 最上義光』 |
| 第6回 『山形の歴史・文化財④ 山形の建築』 | 第14回 『山形の歴史と人物② 上杉鷹山』 |
| 第7回 『山形の歴史・文化財⑤ 山形の日本遺産』 | 第15回 『山形の歴史と人物③ 授業のまとめ、
山形および山形大学に関わる人物』 |
| 第8回 『山形の文化① 果物と在来野菜』 | |

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形市、鶴岡市、酒田市、
新庄市、米沢市など

上記の市町村を中心として、山形の豊かな歴史と文化に関する基礎知識を得ることができます。



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● グループ

学生へのメッセージ

【過去の受講者の感想】

- 山形出身なのに、知らないことばかりだった。山形には目立つ歴史はないと思っていたので驚いた（人文1年）。
- これからの4年間を過ごす上で、入門の授業として最適な内容だと思う（医学1年）。
- 地元に戻ったら、自慢したい山形ネタを得られた（工学1年）。
- 山形県に特別な歴史は何もないと思っていたが、文化財や魅力にあふれていて、誇りに思うようになった（地教1年）。

【授業評価】担当教員は令和元年のベストティーチャー賞を受賞しています。また、学生による授業評価（総合平均）も4.7/5、4.81/5など、受講生の多くが満足しています。

山形の企業を考える

後期

担当教員 | 柴田 聡

曜日校時 | 水曜日 1・2

授業の目的

人口減少のひずみと高齢化が進んでいる地方では、産業の空洞化、雇用の喪失、インフラの衰退などの問題が深刻化し起業による新しい産業の創出が期待されています。鶴岡市の美田に慶應義塾先端生命科学研究所が立地して、18年間にメタボロームという技術突破を中核に発展、世界中からタレントを吸引した結果、今ではメタボロームに加えた Brewed Protein、合成生物学、人工知能のバイオ応用の拠点としても成長しつつあります。では、いったい鶴岡のバイオの奇跡が、どれだけの経済波及効果をもたらしたのかについてグループ学習を通じて学んでいきます。

授業内容

レジュメを配付し、パワーポイントによる講義を行う。またテーマに応じて適宜実習を行い、課題をといてもらう。課題解決に向けてアイデアを出し合い、グループ討論を行いながら、実現可能な解決法を見出す。

- 第1回 鶴岡の奇跡
- 第2回 なぜベンチャーが必要なのか？
- 第3回 ビジネスエコシステム
- 第4回 スタートアップにおける大学の役割
- 第5回 起業の課題を調べよう
- 第6～7回 鶴岡がなぜ成功したかについて調べよう
- 第8～9回 鶴岡の成功を山形県に広めるためのアイデア出し（グループ討論）
- 第10～11回 アイデアを深化（グループ討論）
- 第12～13回 提案用資料の作成（グループ作業）
- 第14～15回 プレゼンテーションとその評価（グループ作業）

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
鶴岡市



地域学習タイプ

講義型 ● ○ ○ ○ 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ○ ○ ○ グループ

学生へのメッセージ

考える力はずぐにはつきません。考えるときは言葉を使いますので、色々な本を読んで、言葉を獲得していく必要があります。仲間とのグループディスカッションでも、相手が理解できる言葉を積み上げていく機会を積極的に利用して下さい。

観光経済学と地域ブランド

後期

担当教員 | 田北 俊昭

曜日校時 | 水曜日 3・4

授業の目的

「観光経済学と地域ブランド」の専門知識（理論）だけでなくグループワーク（実証）を行い、地方創生に関する視察および研究セミナーを体験することが目的である。

授業内容

この授業では、「観光経済学と地域ブランド」についての専門知識を用いたグループワーク、さらに山形県の特定地域の視察および関係者との「研究フォーラム」を開催する。最後は観光地視察および研究フォーラムを実施します。過去には、米沢雪灯籠祭り、「上杉伯爵邸」、雪の月山山麓の西川町「ひな料理」などで郷土料理を味わいました。

- 1. イントロダクション
ー観光経済学と地域ブランド
- 2. 観光の歴史
- 3. 観光と行動
- 4. 観光情報と観光情報産業
- 5. 観光と交通
- 6. 観光資源
- 7. 観光と環境
- 8. 観光と文化
- 9. 観光施設
- 10. 観光と経済
- 11. 観光消費
- 12. 観光政策
- 13. 観光と地域社会
- 14. 観光と風景
- 15. 「観光事業」視察および地域連携セミナー
(2月第2週土曜日・予定)
※第1回は教員による講義、第2回から第14回の前半は担当者発表(2週間前に担当者決定)。後半は「地域および分野トピック事例」を扱います。

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形県内市町村
(隣県を含む場合もある)



地域学習タイプ

講義型 ○ ○ ● ○ 体験型

協働学習タイプ

個人 ○ ○ ● ○ グループ

学生へのメッセージ

学生の発表が中心となる授業です。受講生の皆さんと一緒に楽しみながらやりましょう。観光地視察および「研究フォーラム」の実施にあたり、交通費および実習関係費がかかる場合があります。詳細は初回の授業で説明します。

山形の食を考えるⅡ

後期

担当教員 | 石垣 和恵/三原 法子/藤田 洋治

曜日校時 | 水曜日 5・6

授業の目的

この授業は山形の食文化を学ぶことで現代の食生活の課題を考究することを目的とします。

授業内容

講義ならびに実習

山形の食文化について調理実習を含めて体験的に学びます。

- 第1回 オリエンテーション・山形の食文化概観
- 第2回 芋煮会のルーツを探る
- 第3回 山形の「かてもの」文化
- 第4回 食品保存の基礎(芋がら作りを含む)
- 第5回 実習1 芋煮汁・もって菊のおひたし
- 第6回 大豆の食文化
- 第7回 実習2 アケビの煮物・呉汁
- 第8回 食品保存実習(切り干し大根他)
- 第9回 実習3 みそづくり
- 第10回 実習4 ハタハタ田楽・豆なます
- 第11回 実習5 納豆汁(作った芋がらを使って)
- 第12回 年中行事の由来と郷土料理
- 第13回 課題レポート「我が家の年末年始の食事」報告と交流
- 第14回 食文化を支える郷土の食材と産業
- 第15回 授業の振り返り



授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形県全域



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● ● グループ ●

学生へのメッセージ

グループ活動への積極的参加を求めます。調理実習経費(2700円)は実費負担です。

キャリア形成とワークライフバランス

後期

担当教員 | 井上 榮子

曜日校時 | 水曜日 7・8

授業の目的

- 山形で活躍する講師の方々による講義を通じて、男女が共に仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を保てる働き方について考え、自らのキャリア・ビジョンを描くことを目的とします。
- 「男女共同参画社会」について深く理解し、どのような課題をどのように解決するのか具体的に考えます。
- 学生主体型授業や新聞活用などを通じて、社会人基礎力を身につけることを重視します。

授業内容

- ゲスト講師の授業は、講義、質疑、まとめで構成します。学生主体で進め、事前の講師への連絡や講義・質疑の進行などを順番に担当し、全員が積極的に参加しています。
- ゲストの授業以外は、グループ学習を行い、最後に各自のテーマでレポート発表を行います。
- 新聞切抜きレポートに取組み、社会人として必要な新聞を読む力を身に付けます。



授業で学べる山形関連情報

対象市町村：山形県全域

- 山形県は共働き率や育児をしながら働いている女性の割合が非常に高く、男性も女性も働きやすい職場づくりや男性の家事・育児への参加を積極的に進めています。その山形で活躍する講師の方々との出会いをとおして、ワークライフバランスについて深く学ぶことができます。
- 山形大学はダイバーシティ環境の実現に力を入れ、保育支援も充実しています。授業では、小白川キャンパスにある保育所を見学し、保育士さんへのインタビューや子どもたちとの交流を行います。



地域学習タイプ

講義型 ● ● ● ● ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ● ● ● ● グループ ●

学生へのメッセージ

【受講者の感想】

- 人生100年時代になる中、今までと働き方・生き方が変化していくことを改めて考えさせられた。予測不能な時代には、自分の頭で考えて、自分自身の未来をつくっていくことが大切だと思った。
- 三世同居が日本で一番多い山形県での体験談を聞き、メリット・デメリットや家族の役割について学ぶことができた。自分の将来や共働きで大切なことについて考えることができ、良い機会になった。
- 仕事を決める上で、「なぜ働くのか」、「どこで働くのか」という価値観を大切にしていきたいと思った。山形は子育てにうってつけだと感じ、山形で働くのもいいなと思った。
- 山形の女性は力強くパワーがあると仰っていたが、先生もパワーと信念がすごいと思った。仕事と育児と学びを両立するのは並大抵のことでないが、課題の解決法を何としても見つける力に敬服した。

新聞で山形を知る

後期

担当教員 | 山本 陽史

曜日校時 | 金曜日 5・6

授業の目的

社会や文化の動きを知るのに新聞ほど役に立つメディアはありません。速報性ではテレビやインターネットにはかないませんが、事件の背景の分析や専門家の見解など、その本質を理解する参考となる記事が新聞には掲載されます。つまり社会現象を深く掘り下げるのに適しています。この授業では【山形県全域をカバーする山形新聞の記事を題材にして、山形の社会・文化の現状についてのニュースを読んで分析】するとともに、「山形から見ると日本・世界はどう見えるか、その動きが山形とどのようにかわっているのかを分析」していきます。また、新聞の文章はコミュニケーションのための日本語としてはとても上質なものです。授業のレポートや、就職のためのさまざまな文章を書く際に大いに参考になりますので、文章についても分析し、それを模範にした文章のトレーニングもします。

授業内容

毎回当日の【山形新聞】を中心に、『山形』に関する記事を中心にタイムリーな新聞記事を取り上げ、その記事の背景を解説するとともに、その記事を手がかりにして調査などを行います。もちろん東北・全国・世界の話も取り上げ、視野を広げます。また、何回かは全国紙（読売・朝日・毎日など）やブロック紙（河北新報）と同じ話題を取り上げた記事を取り上げ、比較します。また、新聞の文章を分析し、それにならって新聞記事風のレポートを書いていただきます。出っぱなしではなく、添削を加え、また授業中に提出されたレポートを例示し、改善すべき点を検討しながら、各自の最終レポートを仕上げていきます。

1. 授業概要の説明、新聞を取り巻く環境の説明
- 2-12. 文章の書き方の練習当日の新聞の記事の解説、それに関する調査、討論、新聞の文章の分析、小レポート作（この間のうち3回）、小レポートの添削と修正
13. 最終レポート下書き作成、提出
14. 最終レポート下書き添削、訂正
15. 最終レポート完成品提出、講評

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形県全域



地域学習タイプ

講義型 ● ○ ○ ○ 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ○ ○ ○ グループ

学生へのメッセージ

山形県内で起きているさまざまな社会現象や文化活動、山形が現在置かれている状況、山形の歴史や将来像などを知ることができます。実は日本の人口の100分の1弱である山形は日本の縮図であると言えます。山形を知ることは日本を知ることなのです。

世間の歩き方

後期

担当教員 | 小倉 泰憲

曜日校時 | 金曜日 7・8

授業の目的

本授業では日本社会に特有の側面である「世間」について理解していきます。世間は日本中のいたるところ、大都市や地方に、広い範囲のものから、狭いものまで、様々な形で浸透しています。世間においては、人々がお互いに助け合うという特長もある一方、生きづらさを感じさせる特徴も持っています。山形で学ぶということは、山形における世間を知る絶好の機会です。本授業では学生一人ひとりにとっての世間に着目し、今、山形大学で学ぶということを通じて自分の世間を客観的に表現でき、世間とうまく付き合えるようにしていきます。

授業内容

第2回までは世間に関する基礎的な講義を行い、第3回から第12回までは世間が有する主要な特徴について検討していきます。第13回では世間に適応する方法を取り上げます。ここまでは主として4人程度の小グループ形式で議論する形式をとります。第14回で個人ごとに取り組みテーマを定め、各自検討していきます。

1. オリエンテーション
2. 「世間」とは ・なぜ世間を扱うのか ・世間の良い点・怖い点
- 3-4. 「恩返し」の検討
- 5-6. 「上下関係」の検討
- 7-8. 「共通意識」の検討
- 9-10. 「ウチとソト」の検討
- 11-12. 「自然宗教」の検討
13. 「世間」に適応する ・世間への順応方法 ・世間の縛りから逃れる方法
14. テーマ検討 ・個人的に取り上げたいテーマの選定 ・個別テーマの検討
15. 全体まとめ

注) 履修者数や授業の進行状況に応じて順番や内容が変更されることがある。

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形県全域



地域学習タイプ

講義型 ● ○ ○ ○ 体験型

協働学習タイプ

個人 ● ○ ○ ○ グループ

学生へのメッセージ

日本の中での「あたりまえ」に違和感を持ったり、生きづらさを感じている人がいますが、これは「世間」によるものかもしれません。自分なりの問題意識を持って授業に参加することをお勧めします。

仕事の流儀

～山形の職業人から学ぶ仕事のやりがい～

後期

担当教員 | 松坂 暢浩 / 山本美奈子

曜日校時 | 金曜日 7・8

授業の目的

＜働くことについて知る時間 ～仕事のやりがいを考える～＞

本授業は、『山形県内の企業や自治体で活躍する職業人（プロフェッショナル）の話を聞き「働くこと」について考える』ことを目的にしています。講師のリアルな体験談やキャリア観、仕事観を聞き、自分にとって働くとは何か、卒業後にどのような仕事に就きたいかなど将来のキャリアにつながるヒントを見つけてください。また、働くことを前向きに捉え、社会に出るまでの大学生活をどのように過ごすかを考えましょう。

授業内容

本授業は、本学と連携しているアライアンスネットワーク企業、本学OB・OG、山形にゆかりのある方などを講師としてお招きします。まず講師の先生の話を聞き、その後にはペア・グループでの振り返りと講師への質問を考えます。そして、質疑応答を通して、働くことに対する理解を深めていきます。

- 第1回 オリエンテーション（概要と進め方の説明）
第2～3回 「私と仕事」（「働くこと」や「職業」について考えます）
第4～14回 『外部講師による講演とディスカッション（アライアンスネットワーク企業や本学OB・OGなどによる講演とディスカッション）』

第15回 まとめ（全体のまとめ）

※外部講師の予定により、授業内容、開催回数が変更になる場合があります。

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形県全域

山形県内の企業や自治体で活躍する職業人（プロフェッショナル）の話を聞き「働くこと」について考える。



地域学習タイプ

講義型 ● ○ ○ ○ 体験型

協働学習タイプ

個人 ○ ● ○ ○ グループ



山形から考える地域産業

後期

担当教員 | 吉原 元子

曜日校時 | 集中

授業の目的

現在、そして将来を担う地域産業とはどのようなものなのでしょうか。誰もが何らかのかたちで地域の企業と関わっていても、地域を支える産業の姿を正確につかむ機会はなかなかありません。地域を活性化させる策を考えるには、まず実態を知ることが大切です。この講義は、地域を支える産業をデータから捉えるとともに、「ものづくり」の現場を自分の目で確かめることで、地域経済がどのように動いているのかについて理解を深めて地域産業の将来を展望することが目的です。

授業内容

事前学習、【フィールドワーク（工場見学）】、グループでの検討、プレゼンテーションという流れで、地域産業への理解を深めます。本講義は集中講義形式で行います。冬季休業期間中の3日間を予定しています。詳細な日程・場所は掲示板で改めて連絡します。

- 第1～2回 オリエンテーションー地域産業と地域経済
第3～4回 『地域経済分析システム（RESAS）から地域産業の特徴を把握する』
第5～6回 『フィールドワークの準備ー地域・企業の事前学習』
第7～11回 『フィールドワーク実施』ー山形県内のものづくり企業を訪問
第12～13回 グループ単位による調査結果の集約、分析、ディスカッション
第14～15回 成果発表、講評

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：尾花沢市

- ・地域経済分析システム（RESAS）を使って、山形県の産業の特徴を学びます。
- ・フィールドワーク（工場見学）は、尾花沢市のものづくり企業に訪問する予定です。



地域学習タイプ

講義型 ○ ○ ● 体験型

協働学習タイプ

個人 ○ ○ ○ ● グループ



学生へのメッセージ

1. 普段出会えない社会人と接点がある貴重な経験です。授業内で積極的に質問をしてください。また失礼のないように挨拶や話を聞く際の姿勢などには十分に注意してください。
2. 履修した先輩の感想（アンケートの感想から一部抜粋）
「この講義が一番印象に残る大好きな講義でした。来年度も後輩たちやたくさんの人に「働く」ということを考えてもらえるような講義を作ってもらえればと思います。」
「普段触れ合えない社会人の方々の話を聞くことで、働くことに対する視野が広がり、また山形の企業に対しての興味が生まれました。」
「講演に来てくださった方々はみんな誇りを持って働いていて素敵だと感じました。また、働くことは単にお金を稼ぐことだけではないのだなということに気がきました。」

学生へのメッセージ

【教員からメッセージ】この授業の魅力は「五感」を使って学ぶことで山形県の産業の新たな一面を発見できることです。フィールドワークでは、工場の現場を見学する、企業の方とコミュニケーションすることに加え、日本有数の豪雪地帯である尾花沢の冬を体感したり、そば・だんごなどの特産品の味覚を体験したりします。地方には産業がない？いえ、そんなことはありません、と言えるようになる授業です。

【工場見学をした受講者の感想】企業と山形との繋がりも知ることができ、とても貴重な経験ができた／本格的な工場見学は初めてだったので、とても興奮し楽しかった／自分の地元の産業にも興味を持ち、考えてみようと思わされた／機械関連の仕事を目指している身として見学はとても勉強になった。

地域人材育成キャリア教育プログラムに参加しませんか？

山形大学地域創生教育センターでは、学生の皆さんが地域や社会とのつながりの中で、「いかに生きるか」「いかに働くか」に向き合い、主体的に行動できる力を身につけることを目的とする「地域人材育成キャリア教育プログラム」を実施しています。このプログラムについての説明会を前後期に開催しますので、関心のある方はご参加下さい。



日 時・場 所

前期 4月予定(決定次第、掲示等でお知らせします)

後期 10月2日(金) 16:20～ 基盤教育1・2階121教室

※変更があった場合は、
掲示等でお知らせします。

認定へのステップ

1. 共通科目「キャリアデザイン」領域から1科目を選択して受講する
2. 基幹科目「山形から考える」領域における指定された科目、または「教養科目」における指定された科目から1科目を選択して受講する
3. 上記科目の履修に加え、地域でのボランティア活動に参加する
4. 1～3の終了後レポートの提出により、プログラムの修了を認定する

認定されると

- 認定証(学長名)の交付を受けることにより、早期から地域社会の中でキャリアを考える能力を身につけてきたことの証明になります
- 履歴書に記載可能なので、就職活動にも役立ちます



現地講師からの学び方

地域学習では、担当教員に加えて、現地講師から学ぶ機会があります。

心 構 え

- 現地の方のご厚意により、授業が行われています。常に感謝の気持ちを忘れずに、学習してください。
- 話を聞くだけの受動的な学びから、能動的に理解する学びへと変えていきましょう。

1 話を聞く

- 現地講師を中心にして、声の届く範囲に自分たちで集まりましょう。そうでないと、講師の方は大きな声をあげなければいけません。
- 資料やメモに集中しすぎず、顔をあげてお話を聴き、うなづきなどで理解を示します。
- ひとりひとりの行動が授業のムードを作ります。学生同士の私語は慎みましょう。

3 移動や休憩中も

- バスの乗降、現地での移動は素早く行って下さい。講師の方が皆さんを待つことがないように注意して下さい。
- 移動中も授業です。地域住民の目を意識し、山形大生として相応しい行動を心がけて下さい。
- 移動中も現地講師の方とお話できる機会があります。説明の際にできなかった質問などもうかがってみて下さい。



2 質問する

- 不明な点があれば、すぐに質問しましょう。
- 方言などが聞き取りにくいかもしれません。遠慮せず、うかがいましょう。
- 自分の理解に自信がなければ、「～とのことで正しいでしょうか?」と確かめることも必要です。
- 質問することは、こちらの興味・関心を伝えることになります。

4 将来的に

- 現地講師から話をうかがうなど、自ら積極的に学ぶ姿勢は、将来の皆さんにとって必要な能力となります。
- 年長者や先輩に教えを求めたり、年齢や背景の違う人に話をしたりする場面で、現地講師から学んだ経験がいかにされます。
- 将来を見据えて、大学での学びを進めて下さい。





現地体験の服装

服装について

教室を離れて地域で学ぶ際、服装はとても重要です。
大学生として最低限のマナーであるだけでなく、皆さんが安全かつしっかりと学ぶための準備でもあります。
活動場所や季節にあわせた、適切な服装で地域での学習を存分に楽しんでください。

持ち物



飲み物
(水分補給)



着替え
(特に、農作業や除雪時)

街場での活動

動きやすく、歩きやすい
服装を重視して下さい。

適切な服装

派手な色彩や過度な露出は控え、大学生としてふさわしい服装を心がける。

歩きやすい靴

スニーカー等が良いでしょう。屋内へ移動することもあるので、脱ぎ履きしやすいものが良い。



帽子

日差しから頭を守り、熱中症の予防。

リュック

メモ等が取りやすいよう、両手が自由になるカバンが良い。

野外作業(夏季)

動きやすく、汚れてもよい
服装を重視して下さい。
汚れを気にしては充分に活動できません。

タオル

汗を拭いたり、首筋から虫の侵入を防ぎます。

長袖・長ズボン

かぶれ、擦り傷、虫刺され等を防ぐため、肌を露出しない。

帽子

日差しから頭を守り、熱中症の予防。ハチ除け。

手袋

軍手でも良いが、ゴム張りの手袋がフィットし作業しやすい。

長靴

草によるかぶれや虫の侵入を防ぎます。



野外作業(冬季)

防寒かつ濡れにくい服装を
重視して下さい。
雪かき時などは汗の管理も必要になります。

帽子

耳まで被れるものが良い。

マフラー(タオル)

風の侵入を防ぎ、防寒に大切です。しかし、大きすぎるマフラーは作業の妨げになります。

アウター

風や雪(雨)を通さない(ナイロン性)ものが良い。ない場合は雨合羽などを重ね着する。

手袋

防水性があり、防寒にすぐれたもの。軍手は濡れるので不可。

インナー

吸水性がよく、乾きやすい素材が望ましい。除雪作業など汗をかく場合は、替えの服を用意してください。

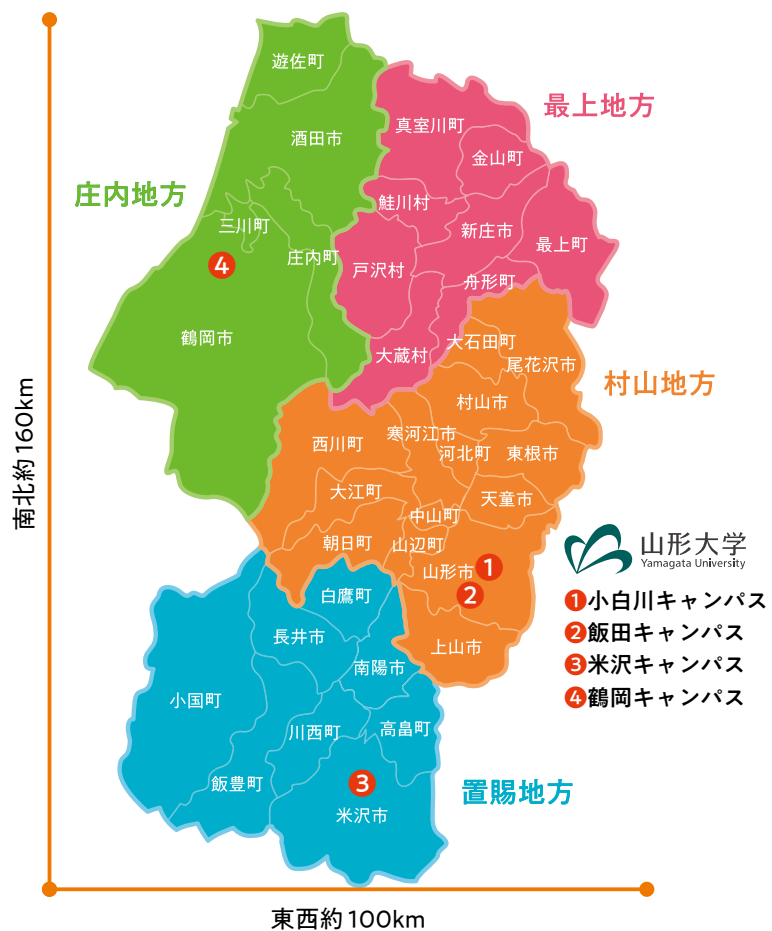
長靴

雪が入らない高さがあり、防水のものが良いでしょう。





山形県の基礎情報



人口：約109万人（全国35位）
面積：約9300km²（全国9位）
人口密度：約116人/km²（全国42位）

全国1位

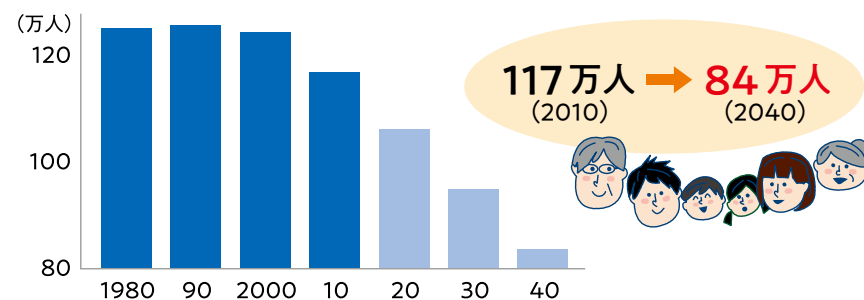
3世代同居率…17.8%
世帯自動車所有量…2.1台

全国2位

共働き率…35.8%
住宅敷地面積…408m²

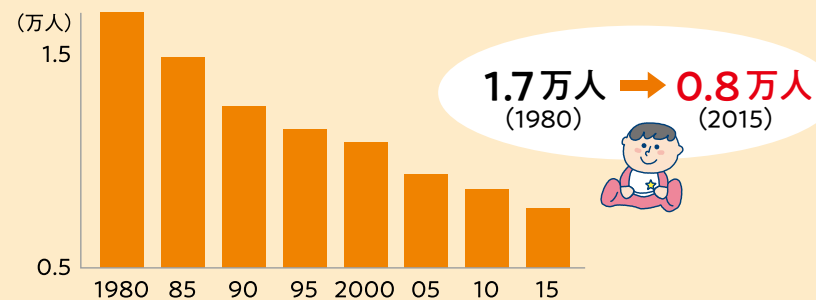
山形県が抱える人口問題

▶ 県人口が約3割減少と予測

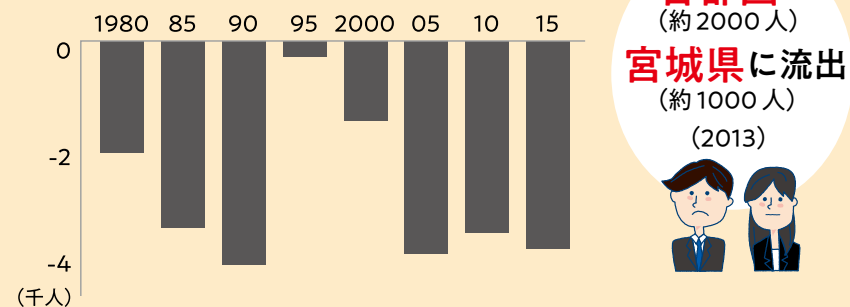


主な原因

1 出生数の低下（少子化）



2 進学・就職に伴う流出



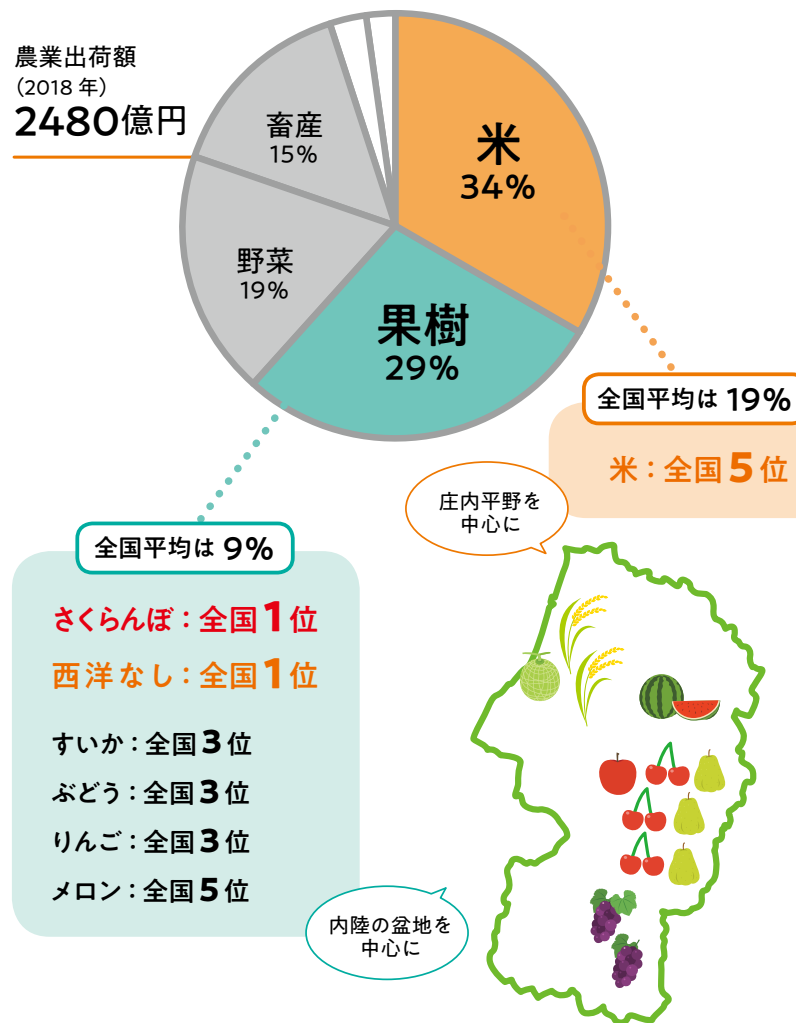
このままでは……多くの市町村が消滅の危機に。

県人口の減少を抑制するためには、雇用の拡大や所得の向上につながる産業の活性化が望まれます。

ここでは山形県の魅力となっている「農業」「ものづくり」「観光」を紹介します。

1 農業

農業出荷額では全国 12 位であるが、米と果樹の割合が高い。

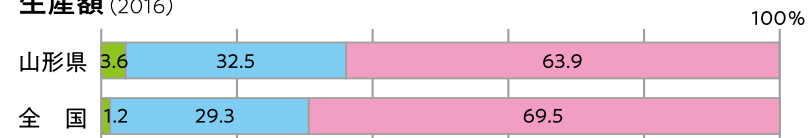


しかし、従事者の平均年齢は 66 歳。後継者の育成が重要な課題に。

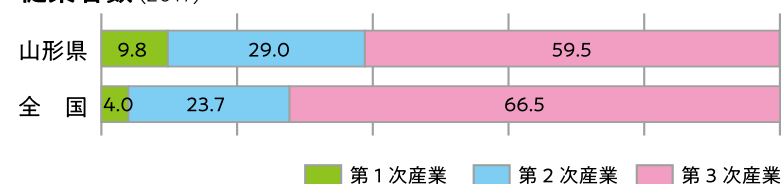
2 ものづくり(製造業)

生産額、従事者数において、製造業を中心とした第 2 次産業が占める割合が高い。

生産額 (2016)

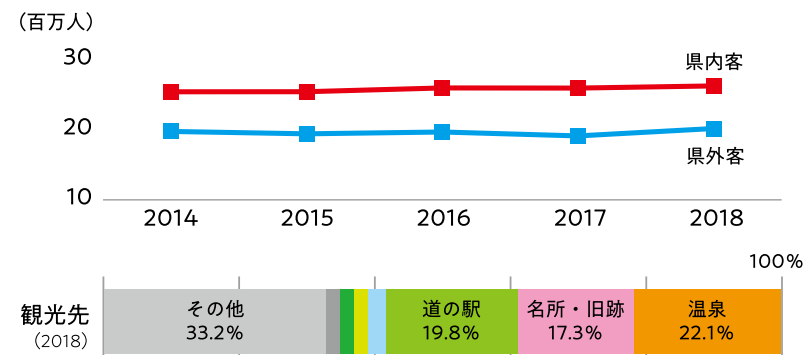


従業者数 (2017)



3 観光

観光客の多くが温泉や名所・旧跡など、山形固有の魅力へ訪れている。



山形をもっと知りたい...



- ▶ 統計情報を知りたい...
山形県統計企画課・統計情報データベース <https://www.pref.yamagata.jp/ou/kikakushinko/020052/tokeijoho.html>
- ▶ 他県との比較を知りたい 日本・地域番付 <http://area-info.jpn.org/>
- ▶ 人口減少問題を知りたい 国立社会保障・人口問題研究所 <http://www.ipss.go.jp/index.asp>
- ▶ 研究・書籍を知りたい ... 県立図書館「山形県関係文献目録」 https://www.lib.pref.yamagata.jp/?page_id=333
- ▶ グルメ・温泉・観光したい やまがたへの旅 <http://yamagatakanko.com/>
- ▶ 広報誌やガイドブックを探したい yamagata ebooks <http://www.yamagata-ebooks.jp/>

授業内容・履修についての問い合わせ先

小白川キャンパス事務部 教務課 基盤教育担当
(A2 基盤教育1 1階 学生センター)